

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9  
 ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 ・ 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年12月5日  
No. 1008

## 1995年1~9月の日口貿易

### はじめに

このほど当会では、大蔵省関税局発表の通関実績にもとづいて、1995年1~9月の日口貿易の商品別輸出入動向をまとめたので、ここに紹介する。付属資料として、日本とCIS・東欧各国との1~9月の輸出入額を一覧にした表を掲載するので、あわせて参照されたい。

1995年1~9月の日口貿易は、往復で45億7,593万ドルで、前年同期比38.6%増加した。うち、日本の輸出は9億2,306万ドルで前年同期比増減なし、輸入は36億5,286万ドルで前年同期比53.7%増であった。これを円建てに換算すると、往復で4,156億円（前年同期比21.6%増）、輸出が831億円（同13.6%減）、輸入が3,324億円（同35.3%増）となる。輸出と輸入の比はおよそ1:4となっており、1~9月の収支も27億2,980億ドル（2,493億円）という日本側の大幅な入超であった。

本誌8月15日号（No. 997）でお伝えしたとおり、上半期の日口貿易は前年同期比51.0%増という大幅な伸びを記録したが（ソ連時代を含め上半期としては過去最高となった）、ここに来て伸びは鈍化している。今年に入ってからの月別の輸出入額は第3表のように推移しているが、春以降円高と連動する形で急増していた輸入が、ここに来てやや勢いを失っていることが響いている。また輸出の方では、2億ドルを超えた月は6月だけであり（同月には1億ドル近い金属加工機械の取引があった）、それを除けば低水準で推移している。

上述のように、1~9月の輸出は前年同期比プラスマイナス・ゼロとなり、目立った動きはなかった。商品構成では、ガスパロム向けの鋼管輸出が一段落したことを受け金属品のシェアが大幅に縮小し、これを一般機械の伸びが埋め合わせる形となっている。一方、輸入では、引き続きアルミニウムをはじめとする非鉄金属が急増し、輸入のなかで4割近いシェアを占めるようになっている。

この10月には、日本政府がルクオイル社向けの油田増産用機材輸出に7億ドルの貿易保険を引き受けることを決定した。また、ヤロスラヴリ製油所の改修プロジェクトの融資契約が調印にこぎつけるなど、輸銀4億ドル融資もようやく全額消化の目処がついた。このように、過去数年不振続きだった対口輸出にもやっと明るい展望が出てきたが、10月3日にはロシア上院が生産分与法を否決し、サハリン沖石油・ガス開発プロジェクトの先行きは不透明になってきた。